

廃止寸前の路線バス みんなで乗って乗車密度5人以上に

弱者の“足”を守ろう

路線バス

秋畑で赤字バス乗り運動促進大会実施

お年寄りや学生、婦人など、マイカーの利用のできない人、赤字バス乗り運動促進大会が、たち（交通弱者）を路線バス、開かれました。

廃止の危機から脱出しようと、この大会は、乗車密度五人



▶大会スローガンを唱和する参加者

未満のバス路線、いわゆる第三種生活路線バス（赤字バス）を、沿線地域の住民やみなさん一人ひとりの理解と協力で、よって乗車密度五人以上の路線（第二種生活路線）に引き上げをし、その維持を図っていくと誓うものです。

現在、秋畑地区を走る上郷バス（富岡駅一帯島駅入り口一那須線）は五十七年度で回線補助が打ち切れ、五十八五十九年度の二年間に限っては県の補助対象路線となつています。乗車密度は、五十八年度が四・一人、本年度六月時点の累計で四・六人と微増はしているものの、依然として第二種路線格上げの基準に至っており、このままの状態が続けば、来年度限りで県の補助が打ち切れ、町の財政では補助金を負担しきれず廃止の道をたどってしまいます。

この岐路に立つ路線バスを、なんとか存続せよと、秋畑地区の町議、区長、教育委

員、農業委員らが赤字バス乗り運動促進大会実行委員会を組織、地域ぐるみで乗車運動を展開して、こうと誓った人たちに呼びかけました。

この日は大変暑く、館内は蒸し風呂のような状態でしたが、次々に登壇してバス存続を熱心に訴える学生や婦人、老人の代表者に、二百人近く詰め掛けの参加者から盛んな拍手が送られ、終わりに参加者全員で五項目の大会スローガンを唱和して、バス存続を誓い合いました。

※町では、大切なバス路線を守るため、買物や通院の際に、すずんでバスを利用されるようみなさんにご協力をお願いしています。



▶バスで帰宅する参加者



▶秋畑を走る路線バス